

令和6年度 国立大学法人琉球大学地域貢献活動表彰 受賞者一覧

No	表彰区分	受賞者名 (所属・役職)	活動内容・評価結果
1	地域貢献特別表彰	杉尾 幸司 (教育学研究科・教授)	<p>(活動内容) 科学技術人材の育成を目的として沖縄県内の児童・生徒に研究発表促進企画の展開および教員の理系指導力向上を目指した地域ネットワークの構築を全県的に展開した。</p> <p>(評価結果) 人材育成こそが最重要課題と捉える沖縄県にあって、県内の小中高校における児童・生徒を対象に、科学人材の育成・創出を目的に取り組みを実施してきたこと及びその活動をより一層強力に推進した功績は極めて大きく、また、本取組みを基に、JST事業に採択されるなど大きな成果にも繋がり、地域の人材育成拠点としての重要なモデルケースともなっており、本学の名誉を高めた功績は顕著であると判断した。</p>
2	地域貢献表彰	前野 昌弘 (理学部・准教授)	<p>(活動内容) 20年近くに渡り、県内の小・中学校、高等学校へ向けた物理系出前授業を主宰するとともに科学に親しむイベント活動を行っている。さらに「科学や物理学の楽しさを伝える」活動を学内外を問わず数多く実施している。</p> <p>(評価結果) 20年という長期にわたり「教育のために」「科学や物理の楽しさを伝えるために」という高邁な精神で、県内の多くの児童・生徒を対象相手に出前体験実験を実施したことを高く評価し、手弁当によるボランティア活動という高い志により、その活動を通して興味・関心を持った児童・生徒から科学技術分野で活躍する人材を多く輩出している点は、まさに教育機関が持つ「人財」の養成機関としての役割をきちんと果たしている一助となっている。</p>
3	地域貢献表彰	増田 昌人 (病院がんセンター長・特命准教授)	<p>(活動内容) 沖縄県の離島をエリア別、さらに、がんの種類ごとに各地域で受けられる治療内容等を記載したガイドを作成し、対象町村の世帯へ無料配付を行った。さらに、一般住民向けの講演会と無料相談会を行い、全ての離島診療所を訪問しがん医療について現状をヒアリング・対応策を検討する等へき地に対する医療対策を講じた。</p> <p>(評価結果) がん医療の均てん化を図るため、島嶼県である沖縄県の課題を整理し、8地域12のがん種ごとに分け、がんになった場合の診療、治療、観察、療養といった観点からのガイドブックの作成やWEBサイトの立ち上げを通じて、離島・へき地の方々に寄り添った取組みを継続して実施している。また、離島・へき地のがん医療については、琉球大学病院がリードしているとの地元自治体職員の評価がある点や厚生労働省のがん対策推進協議会における前述のWEBサイトが、我が国のがん対策の代表的なサイトの一つとして紹介されており本学の名誉を高めていると言える。</p>
4	地域貢献表彰	徳元 美智子 (グループ代表者) (附属図書館情報サービス課保存公開係長)	<p>(活動内容) 附属図書館が所蔵する文化資源の貴重資料を地域社会へ還元することを企図し、平成6年度から学外企画展（貴重資料展示会）を開催してきた。さらに、令和5年度からは、「おでかけ貴重書、〇〇へ行く！」とし琉球列島内5箇所地域で開催し、SNSでの情報発信を行い、収集した貴重な沖縄関係資料を電子化し広く一般に公開するなど積極的な活動を実施している。</p> <p>(評価結果) 大学図書館の使命としての資料の収集及び保存に加え、その積極的な公開を行うことについては、地域資料や貴重本などに関心を示す人々にとって望まれ続ける活動であり、本学の評価を高めていると言える。</p>

※表彰区分の説明

- 地域貢献特別表彰 地域貢献活動において、①地域貢献の取組の重要性や特色、②地域社会への波及や貢献度及び成果、③本法人の名誉を高めた効果の3つ観点から顕著な功績を有した者又はグループ
- 地域貢献表彰 地域貢献活動において上述の3つの観点から高い功績を有した者又はグループ
- 地域貢献奨励賞 3つの観点に準ずる業績を有する者またはグループで、募集年度の4月1日現在において、39歳以下の若手の者